

日本教科内容学会第7回研究大会（紙面開催）プログラム案

- 会期：2020年8月7日（金）
- 形態：紙面開催
- 参加費：会員 2000 円、学生会員 1000 円、一般 2000 円

①総会（メール会議）：12：00～13：00

メール会議で、審議に時間を要する案件が提示された場合、再度総会をメール会議にて開催する可能性があります。

②個人研究発表：本年度の大会は、現地で実際に発表するというかたちではなく、発表要旨と学会発表資料の提出をもって発表成立とします。

| | |
|-------------|-------------|
| 参加申込・発表申込締切 | 5月22日（金）17時 |
| 発表要旨原稿締切 | 7月7日（火）17時 |
| 学会発表資料締切 | 8月7日（金）17時 |

（*）発表要旨原稿において、個人研究発表者は個人研究発表要旨を、課題研究発表者は課題研究発表要旨を、提出下さい。

③課題研究発表者は以下【課題研究Ⅰ・Ⅱ】の通りです。各教科の代表者合計10名の方、西園芳信様、浪川幸彦様、以上12名の方は、発表要旨原稿と学会発表資料をそれぞれ、上記締切日までにご提出お願いします。

【課題研究Ⅰ・Ⅱ】

課題研究Ⅰ・Ⅱ：「教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発—教科内容構成とシラバスの提案（10教科）—」

1. 趣旨説明 10分 西園芳信（聖徳大学特命教授）

【趣旨】：教員養成大学・学部教育課程においては、免許法の改正（2017年11）で「教科の内容及び構成に関する科目」を新たに設定することとされ、また大学院修士課程の教科教育分野は、教職大学院に移行することが推進され伝統的な教科専門の教育内容を教職大学院のカリキュラムに即したものと開発することが求められています（中教審答申「これからの学校教育を担う資質能力の向上について」（2015年）等）。このようなことから教員養成大学・大学院においては従来の教科専門を捉え直すことが喫緊の課題になっています。

本学会は、この課題に応えるために「教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発」のプロジェクト研究（5ヵ年計画で現在5年目）を設置し、「各教科の教科内容の体系性と全教科を俯瞰した体系性（教科内容学の原理）の究明」によって教員養成のための教科内容構成のモデルとシラバスを提案することを目的に推進してきました。この度、その研究成果を報告書として冊子にまとめました。その内容は、次の通りです。

序章 わが国の教員養成における教科専門の背景と課題、第一部 教員養成における教科内容学研究、第1章、教員養成における教科内容学の研究の歴史、第2章、教員養成における教科内容構成開発の原理、第3章、全教科を俯瞰した教科内容の体系性（全教科の教科内容に共通する原理）第二部 教科内容構成開発の具体（10教科）（小学校・中学校、教職大学院のシラバスと授業実践の展開例）第三部 教科内容構成の観点からの学習指導要領の検討（10教科）、終章 教員養成における教科内容学研究の意義と展望。

そこで今回は、この報告書を関連分野の専門家に事前に読んでもらい、特に「教科内容学に基づく教員養成のための教科内容構成の開発—各教科の教科内容構成とシラバス—」を中心に批評をいただき、というのがこの課題研究の趣旨です。なお、開発した「各教科の教科内容構成とシラバス」は、教員養成において課題となっている「教科専門」と「教科教育」を関連させた授業創出の設計図になるものです。

2. 課題研究Ⅰ

司会：西園芳信・浪川幸彦（椋山女学園大学客員教授）

○提案：教科内容構成とシラバス（小学校・中学校・教職大学院）の提案（5教科）

○各教科の教科内容構成とシラバスの提案（10分）及び批評（10分）

①数学：松岡隆（四天王寺大学教授）＋批評者

②美術：新井知生（島根大学教育学部教授）＋批評者

③国語：村井万里子（鳴門教育大学教授）＋批評者

④社会：下里俊行（上越教育大学教授）＋批評者

⑤家庭：平田道憲（広島大学名誉教授）村上かおり・鈴木明子（広島大学教授）、富永美穂子（広島大学准教授）＋批評者

3. 課題研究Ⅱ

司会：小野瀬雅人（聖徳大学教授）松岡隆（四天王寺大学教授）

○提案：教科内容構成とシラバス（小学校・中学校・教職大学院）提案（5教科）

○各教科の教科内容構成とシラバスの提案（10分）及び批評（10分）

⑥理科：佐藤勝幸・胸組虎胤（鳴門教育大学教授）＋批評者

⑦音楽：中島卓郎（信州大学教育学部教授）＋批評者

⑧英語：松宮新吾（追手門学院大学国際教養学部教授）＋批評者

⑨技術：菊地章（鳴門教育大学教授）＋批評者

⑩体育：荒木秀夫（徳島大学名誉教授）綿引勝美・松井敦典（鳴門教育大学教授）＋批評者

○提案：全教科の教科内容を俯瞰した教科内容学の原理：浪川幸彦（椋山女学園大学客員教授）

○討議

2020年4月30日

日本教科内容学会第7回大会準備委員会

委員長 梶原郁郎（山梨大学）

準備委員 原健二（東京学芸大学）